

B巻目次

B巻

B巻序文	653
著者たちについて一言！！	657
B巻目次	663
A巻目次	668
第5章 鍵 - 錠前	673
5.1. 一般	673
5.1.1. 鍵と鎖の識別と検査 [6]	673
5.1.2. 鍵の検討 [6]	674
5.1.3. 鎖の種類 [7]	678
5.1.4. Defender [7]	679
5.1.5. マスターキーシステム [7]	680
5.1.6. パニックバー [7]	681
5.1.7. 異なるメカニズム [7]	682
5.1.8. エレクトリック・ストライク [7]	683
5.1.9. アクセス制御 [7]	683
5.1.10. 装甲式ドア [7]	684
5.1.11. リモコン制御 [6]	684
5.1.12. 錠の検査 [6]	685
実例	685
5.2. イモビライザーおよびトランスポンダー [7]	695
実例	697
5.3. 盗難工具 [6]	699
5.4. 盗難方法 [7]	702
実例	707
5.5. 侵入窃盗鑑定における個別特徴工具痕 - BKA [2]	708
実例	717
5.6. 金庫 [7]	722
実例	724
5.7. バイオメトリック技術 [7]	728
5.8. キーと容疑者の関連 [6]	730
5.9. 統計分析 - 繰り返し性 [6]	730
実例	731
5.10. 標準と試験 [6]	735
章の要約	736
章図書 - ソース	737
第6章 薬きょうの排出	739
6.1. 一般 - 定義	739
6.2. 排放距離	741
6.3. 半自動ピストルの薬莢	742
6.4. 半自動・自動式短機関銃および小銃から排出された薬きょう	748
6.5. Revolvers の薬莢	752

6.6. ショットガンからの薬莢	753
6.6.1. 散弾銃	753
6.6.1.1. 半自動散弾銃	753
6.6.1.2. 連発式散弾銃	755
6.6.1.3. ボルトアクションの有無を問わない連発式散弾銃および小銃	757
6.6.2. 二連式散弾銃	759
6.6.3. 単銃身散弾銃	759
6.6.4. Flobert	760
6.7. 銃を抱える方法	761
6.8. 射撃者の位置決定	764
事例	764
章の要約	773
章図書 - ソース	774
第7章 引き金を引く力	777
7.2. トリガー・プル	779
7.3. 無意のトリガーアクチュエーション - トリガー安全対策	782
7.4. 銃器の奪い合い	786
事例	786
章の要約	793
章図書 - ソース	794
第8章 銃撃音響	795
8.1. 音の一般的原則	795
8.2. 音声と音声伝播 - 吸収と反射	798
8.2.1. 音の種類 [30]	800
8.2.2. 波現象 [30]	800
8.3. 銃撃音響と銃撃音響レベル	802
8.4. 聴覚刺激に対する反応時間	814
8.4.1. パラメータ化	819
8.5. 音響変化の認識と解釈 - 火の速さ	819
事例	820
8.6. 消音銃器の音響特性	824
8.7. 線形補償器	831
事例	833
章の要約	833
章図書 - ソース	834
第9章 薬きょうおよび弾丸の合金 - 金属	837
9.1. 化学成分 - 合金	837
事例	839
9.2. 酸化	853
9.3. ガルバニクス腐蝕	855
9.3.1. 銅 (Cu-Zn合金)	856
9.3.3. 鉄	858
事例	860
章の要約	861
章図書 - ソース	862
第10章 シリアル番号復元	863
10.1. 一般	863
10.1.1. 用語	864
10.2. 復元方法 - 理論的な基礎	864

10.2.1. 熱処理	866
10.2.2. 超音波キャビテーション	867
10.2.3. 磨き - 磨き	867
10.2.4. メタログラフィックメソッド	867
10.2.5. 化学エッチング	868
10.3. 化学反応剤	869
10.4. 番号の抹消・改変および虚偽番号作製の方法と技法	871
10.4.1. 真正な番号の抹消・研削（除去）に使用する方法：[2,6]	871
10.4.2. フレームまたはエンジン番号の変更:	871
10.4.3. 偽のフレームまたはエンジン番号の製造:	871
10.4.4. 挿入 - フレーム番号の挿入:	872
10.4.5. メタルインプランテーション	872
10.4.6. VIN番号:	873
実例	874
章の要約	879
章図書 - ソース	879
 第11章 跳弾現象	 881
11.1. 一般	881
11.1.2. 定義	881
11.2. 現象の分析	884
11.3. 物質の硬さと遵守 - 偏りと偏り	889
11.4. 表面の衝突痕	891
11.5. 跳弾 - 弾丸の検査	894
11.6. 跳弾による表面の検査	897
11.6.1. 頑丈な表面	898
11.6.2. 降伏する表面	898
11.6.3. 跳弾と表面	898
11.7. 跳弾の方向性および方向	901
11.7.1. 初期接触点（ピッチポイント）	902
11.7.2. 弓の効果	903
11.7.3. チシム・トレイル	904
11.7.4. 導入痕（Lead-In Mark）	904
11.7.5. 弾丸拭痕（Bullet Wipe）	904
11.7.6. 材料移転と埋め込み	904
11.7.7. 鉛スプラッシュ	905
11.7.8. 塗料割れ線	905
11.7.9. 最も深い点	906
11.7.10. 総合的なアプローチ	907
11.7.11. 車体鋼板上の二重跳弾痕	907
11.8. 結論	908
実例	908
章の要約	923
章図書 - ソース	924
 第12章 射撃残渣 - GSR	 925
12.1. 一般 - 定義	925
12.1.1. 発射薬:	927
12.1.2. 補助材料:	929
12.1.3. 爆発物:	929
12.1.4. プライマー:	930
12.2. 発射薬および煤残渣の検出	932
12.3. 鉛残留検出試験	935
12.4. 銅残留物検出試験	938

12.5. トレースエレメント検出テスト	938
12.6. 雷管由来射撃残渣 (pGSR) の最新検出法	939
12.7. 無機発射残渣 (GSR) 粒子はどこから生じるのか?	941
12.8. 発射残渣 (GSR) 粒子はどのように生成されるか?	942
12.9. 特徴的な、一貫した、共通の粒子	942
12.10. 残渣の付着	944
12.11. 雷管由来射撃残渣 (pGSR) と発射薬残渣の相違	947
12.12. GSRと作動済み火工組成物残渣の相違点および類似点	948
12.13. 銃口から標的までの距離測定	949
12.14. 射撃残渣の証拠価値	953
12.15. 汚染	955
12.16. 結果 - 結論	956
実例	956
章の要約	962
章図書 - ソース	963
第13章 爆発物および可燃性物質	965
13.2. 爆発物の歴史的な開発	965
13.3. 燃焼の原則	969
13.4. 爆発物質	970
13.4.1. 爆発物の種類	974
13.4.2. 爆発の影響 [12]	985
13.4.3. 爆発メカニズム	989
13.4.4. 爆発装置	991
13.4.5. 火災と爆発の違い	992
実例	993
13.5. パイロテクニク組成	997
13.6. 爆発物とピロテクニクの組成の間の違い	997
実例	999
13.7. 燃える材料	1000
13.7.1. 焼夷装置	1000
13.7.2. 材料の閃き点	1001
実例	1004
13.7.3. 爆発と火の間の違い - 燃焼メカニズム	1004
実例	1006
13.7.4. 一般的なモロトフ・コクテイル	1007
実例	1010
13.8. 爆発と火の場面の調査	1012
実例	1013
章の要約	1015
章図書 - ソース	1016
第14章 創傷弾道学	1019
14.1. 一般	1019
14.2. 弾丸エネルギーに対応する組織変位域	1023
14.3. 弾丸入口創の特徴	1025
14.4. 密着射撃創	1028
14.5. 接触銃撃傷	1029
14.6. 接近銃撃傷	1033
14.7. 斜入射の近接射撃による入口創	1036
14.8. 中間距離の銃撃傷	1037

14.9. 長距離銃撃傷	1039
14.10. 弾丸出口創の特徴	1039
14.11. 散弾銃創	1041
14.12. 射撃距離を示す他の発見	1048
14.13. 阻止力	1048
14.14. 致命的な傷を受けた後、動ける能力	1051
14.15. 跳弾または偏向した弾丸による創傷	1053
実例	1054
14.16. 皮膚浸透	1059
14.16.1. 皮膚穿孔の最低速度（皮膚穿孔閾値速度）	1059
14.17. 散弾銃および空気銃装弾の貫通力と致死性	1062
14.17.1. 散弾銃の散弾パターン	1064
実例	1065
14.17.2. 空気銃の危険	1078
実例	1079
14.18. 血のパターン分析 [31]	1081
14.18.1. 一般	1081
14.18.2. 血の斑点パターン分析	1082
14.18.3. 数学 - 物理	1085
14.18.4. 生物学と環境条件	1085
14.18.5. 角度計算	1085
14.18.6. 血の代表的な種類	1087
実例	1092
14.19. 組織の変化と傷口	1099
14.19.1. 一般	1099
14.19.2. 理論分析	1104
14.19.3. 拳銃から組織へのエネルギー伝達（拳銃創プロフィール）	1108
実例	1114
14.19.4. 軍用小銃創（小銃創プロフィール）	1123
実例	1141
14.19.5. 射撃銃から組織へのエネルギー転送（射撃傷プロフィール）	1144
14.19.6. 空包銃器およびガス銃器から組織へのエネルギー伝達（Knall創傷プロフィール）	1148
14.19.7. 空気銃から組織へのエネルギー転送（空気銃の傷形）	1148
実例	1150
14.20. パリステック病理学発見（パリステック病理学解剖学）	1152
14.20.1. 一般	1152
14.20.2. エネルギー伝達と分析の発展に関する理論弾道学的基礎	1155
14.20.3. 弾道病理解剖学的検査の基準	1159
14.20.4. 脳内	1160
実例	1167
14.20.5. 皮膚の層	1169
14.20.6. 皮膚下組織と結合性ストロマ	1177
14.20.7. 筋肉 - 筋細胞	1181
14.20.8. 軟骨中	1182
14.20.9. 肺の中で	1184
14.20.10. 肝臓	1186
14.20.11. 乳房（乳腺）内	1187
14.20.12. 血本の中で	1188
14.20.13. 周辺神経	1191

14.20.14. 炎症反応と細胞反応	1192
章の要約	1197
章図書 - ソース	1199
第15章 犯罪現場	1203
15.1. 一般	1203
15.2. シーンの管理	1205
15.2.1. 犯罪現場保護	1205
15.2.2. 予備調査 - 犯罪現場調査	1206
15.2.3. 叙述の説明 - 注記	1207
15.2.4. スケッチ	1207
15.2.5. 写真 - ビデオ録画	1208
15.2.6. 証拠収集, ラベル付け, 包装, 保存	1209
15.2.7. 証拠の安全な処理のための措置と規則	1211
15.2.8. 暴力犯罪分析ユニット (UACV)	1212
15.3. 舞台の再現	1214
実例	1219
章の要約	1259
章図書 - ソース	1260
鑑定に関する質問と回答—B巻	1263
附属書: 実例の総合分析と評価	1281
略語	1299
測定単位と等価	1305
B巻索引	1313
B巻の図	1321
B巻の表	1339
B巻の事例	1341